

秋田県書道連盟会報

第 125 号
秋 田 県 書 道 連 盟
事務局
秋田市泉菅野一丁目18-1
三浦湯舟
長沼雅彦
発行人 長沼雅彦
編集 広報部
(題字：長沼雅彦)
<http://www2.tbb.t-com.ne.jp/aki-shodorenmei/>



東京五輪・パラリンピックが閉幕した。コロナ禍での実施。近代五輪史上初めて、開催が1年延期されるなど、開幕に至るまでは賛否をめぐって議論が沸騰した。

多くの人々に望まれた五輪とは言い難かったようだが、結果的に開会中は日本中が熱狂の渦の中にいた。

大半の競技は無観客開催だった。しかし、コロナから身を守るための巣ごもり生活でテレビ観戦する機会が増え、いやがうえにも国民の関心は高まった。

五輪の日本選手団はお家芸の柔道やレスリングに加え、スケートボードといった新採用競技でも躍動し、金メダルラッシュとなった。そんなメダリストたちが口々に「開催してくれてありがとう」とインタビューで答える場面に目頭を熱くした人は多い。

熱気が去った後の国内はというと、感染力が増したデルタ株の蔓延もあってコロナ感染者が急増し、一気に現実世界に引き戻された感がある。シェークスピアの戯曲さながら、あの五輪の熱狂は『夏の夜の夢』だったのかと思うほどである。しかしながら、数々の感動を生み出した勝負の名シーンは、生涯脳裏から消えまい。

秋田魁新報は五輪開催中に、「熱戦の書」と題したコラムを随時掲載した。筆者は若手書家の岡西佑奈さん。自然界の曲線美を書で追求する独自の創作活動を行っている。競技を観戦しながら浮かんだ言葉を書にし、その思いを一つ一つもろう企画だ。

「書はアートと地続き」だと言う岡西さんらしく、墨だけでなく、色を多用した文字が多かった。最終回には「選手の皆さんはもうパリに向かってきているのだから。私たちも次に向かって歩こう」と、アルファベット4文字で「NEXT」と書いた。白の下地に青で「NE」、赤で「XT」。トリコロール（フランス国旗）カラーである。

あらためて、書は自由であり、開かれた伝統文化だと思ふ。7月に秋田市のアトリオンで開かれた県書道

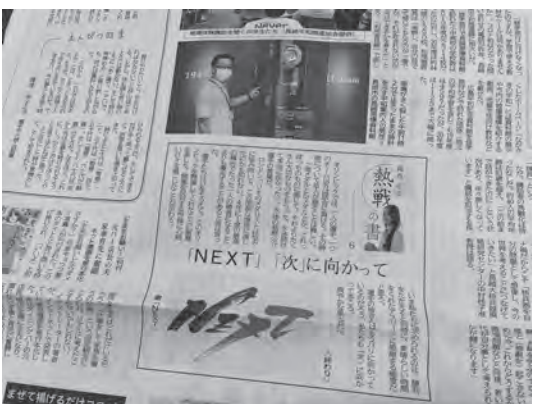
連盟の60周年記念展覧会でもそれは感じた。台湾の中華民国書学会の皆さんからの出品作は遊び心にあふれていた。太陽の象形や、天からしたたり落ちる水滴の数を大量に描いた「雨」の字を組み合わせた「晴耕雨読」は、漢字の成り立ちを思わせてくれる楽しい作品だった。

10年前の連盟50周年記念展には韓国からハングルの作品が寄せられた。中国発祥の漢字から日本固有の仮名が生まれたように、書にはあらゆる言語、文字に対応するグローバル文化の素地がある。

ところで、いささか気が早いのが、一年の世相を表す「今年の漢字」が気になる。これまでに選出されたのは26年間で23字。「金」が3回、「災」が2回と、複数回選ばれている。

2016年のリオ、2012年のロンドン、2000年のシドニーと、五輪年に日本勢が活躍すると「金」が選ばれた。それにならえば、過去最多の27個の金メダルを獲得した今年も「金」なのだろうが、コロナという

災厄と対峙しているの「災」も有望か。そのいずれでもない「明」が年末に選ばれるのがベストなのだが。



熱戦の書・秋田魁新報8月10日付

監 事

小松 清峯
竹内 玄峰
高橋 抱雲
黒木 天簫
長沢 薫
荒川 康一
藤原 瑛翠
東海林 山
道川屋 悟
富樫 弥恵子
山谷 喜元
齊藤 玲子
相原 蕙花
上野 泰夫
竹村 天祐
三浦 湯舟
北畠 龍門
藤原 豊道
長沼 雅彦
佐川 博之

会 長
副 理 事 長
常 任 理 事

佐川 博之
長沼 雅彦
藤原 豊道
北畠 龍門
三浦 湯舟
竹村 天祐
上野 泰夫
相原 蕙花
齊藤 玲子
山谷 喜元
富樫 弥恵子
道川屋 悟
東海林 山
藤原 瑛翠
荒川 康一
長沢 薫
黒木 天簫
高橋 抱雲
竹内 玄峰
小松 清峯

本年度定期総会と理事会（5月9日）がイヤタカにて開催されました。
役員改選で会長に佐川博之、理事長に長沼雅彦が再任されました。任期は2年です。

令和3年度定期総会

令和3年4月29日（木・祝）
会場 イヤタカ（秋田市）



コロナ禍の定期総会



左から長沼理事長、佐川会長あいさつ

令和3年度 事業計画

	総務部	研修部	展覧会部	広報部	広告部	I T 部
4月	正副部長会議 4月11日(日) 10時～ 監査会 4月20日(火) 10:00～ 理事・常任理事会 4月25日(日) 13:30～ 総会 4月29日(木,祝) 10:30～				会報発行・県書道連盟展に向けた広告依頼活動(総務部)	
5月	理事会 5月9日(日) 13:30～ 県芸文協決算総会 5月28日(金) ・正副部長会議・活性化委員会 5月30日(日) 15時～					
6月						
7月	筆供養神事 (日吉八幡神社) 7月10日(土) 11時～		県書道連盟記念展 (アトリオン) 7月9日(金)～12日(月) 開幕式10日(土) 13時～			
8月						
9月				会報発行 (125号)		
10月		実技研修会 (秋田市) 月 日(日) 14時～ 懇親会 17時～			書初め大会と新春小品書展に向けた広告依頼活動(広告部)	連盟ホームページの管理運営(連盟の紹介、組織図、行事カレンダーの作成、各種行事の参加者募集、会報のインターネット公開等々)
11月	書初め準備会議 (県立武道館) 11月28日(日) 13:30～					
12月			県芸文協会議 (フォンテ秋田) 12月 日(金)			
1月	新春書初め席書大会 (県立武道館) 1月9日(日) 書初め展覧会 (さきかけホール) 1月27日(木)～30日(日) 授与式1月30日(日)	新年研修会 1月 日(日) 10時30分～ 懇親会(総務) 12時～	新春小品書展 (さきかけホール) 1月27日(木)～30日(日) 書初め展覧会 (さきかけホール) 1月27日(木)～30日(日)			
2月						
3月	県芸文協予算総会 3月 日		秀作美術展 (県芸文協主催) 3月10日(木)～13日(日)	会報発行 (126号)		

令和3年度 収支予算

自 令和3年4月1日
至 令和4年3月31日

収入総額 1,879,000円
支出総額 1,879,000円
差引残額 0円

収入の部

(単位：円)

費 目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
前年度繰越金	252,721	227,838	△ 24,883	
会費	690,000	690,000	0	本年度分 @3,000円*230名
寄付金	122,000	120,000	△ 2,000	常任理事・理事 @2,000円*60名
事業収入	840,000	840,000	0	広告料、連盟展出品料 各事業収入
雑収入	1,279	1,162	△ 117	利息等
合 計	1,906,000	1,879,000	△ 27,000	

支出の部

(単位：円)

費 目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
事務費	307,000	290,000	△ 17,000	
消耗品費	31,000	31,000	0	文具品、出納簿、コピー、諸費
通信費	136,000	124,000	△ 12,000	郵送料、切手、案内ハガキ
会議費	80,000	80,000	0	役員会議会場費等
交通費	50,000	50,000	0	役員会議旅費
諸費	10,000	5,000	△ 5,000	振り込み手数料等
事業費	1,481,000	1,491,000	10,000	
総務部費	40,000	40,000	0	事務打合せ会場費等
研修部費	150,000	150,000	0	研修会、新年研修会、講師謝礼等
覧会部費	253,000	253,000	0	県書道連盟展等
広報部費	50,000	50,000	0	会報発行諸費
広告部費	50,000	55,000	5,000	活動諸費
IT部費	108,000	98,000	△ 10,000	ホームページ維持管理費、取材費等
連盟展事業費	230,000	230,000	0	連盟展会場費、目録、ハガキ
書初め大会費	32,000	47,000	15,000	書初め席書大会補助金
印刷出版費	467,000	467,000	0	会報、諸会合資料
筆塚供養費	51,000	51,000	0	供養謝儀、参加者(子供)記念品代
活性化委員会費	50,000	50,000	0	通信費、会場費等
負担金	30,000	30,000	0	県芸文協へ 30,000円
表彰費	10,000	5,000	△ 5,000	
慶弔費	25,000	20,000	△ 5,000	
雑費	3,000	3,000	0	
予備費	50,000	40,000	△ 10,000	
合 計	1,906,000	1,879,000	△ 27,000	

令和3年度 第13回 秋田県新春書初め席書大会 予算

審査日 令和4年1月9日(日)
 展覧会日 令和4年1月27日(木)～1月30日(日)

収入総額 1,020,000円
 支出総額 1,020,000円
 差引残額 0円

収入の部

(単位：円)

費 目	前年度予算額	今年度予算額	増 減	備 考
広告協賛金	660,000	630,000	△ 30,000	協賛社42件 1件15,000円
参加費	320,000	320,000	0	大学以下 計 480人 一般 80人 480人×500円= 240,000円 80人×1,000円= 80,000円
薄茶席売上	22,000	22,000	0	200円×110枚
雑収入	1,000	1,000	0	
連盟補助金	32,000	47,000	15,000	
合 計	1,035,000	1,020,000	△ 15,000	

支出の部

(単位：円)

費 目	前年度予算額	今年度予算額	増 減	備 考
魁広告掲載費	385,000	385,000	0	魁新聞紙上掲載
オープニング行事委託費	40,000	40,000	0	
お雑煮等委託費	200,000	200,000	0	1,000食分の材料費、その他経費
薄茶席委託費	50,000	50,000	0	茶席委託
華道連盟委託費	40,000	40,000	0	生け花展示委託
書道パフォーマンス委託費	60,000	60,000	0	用紙代、及びその他経費
司会委託費	10,000	10,000	0	
通信費	50,000	50,000	0	関係先への文書郵送料
消耗品費	85,000	80,000	△ 5,000	用紙、文具等
印刷製本費	20,000	15,000	△ 5,000	インク代等
雑費	2,000	2,000	0	振り込み手数料等
表彰費	20,000	20,000	0	表彰景品代
筆耕費	45,000	40,000	△ 5,000	賞状筆耕料
人件費	28,000	28,000	0	作品展示補助作業
合 計	1,035,000	1,020,000	△ 15,000	

コロナ禍の記念展

副理事長・展覧会部 部長
藤原豊道



第60回記念展は新型コロナウイルス感染症の状況下で不安もありましたが、適切な予防対策を施すことで開催の運びとなりました。

綿密な企画により進められた今展は、ご協賛頂いた台湾、青森、岩手の代表作家により招待作品41点が加わり、記念展に相応しい輝きを添えていただいた。台湾20点、青森11点、岩手10点、会員作品140点を加え、総点数181点となった。

作品集を刊行するということで、魁新報社からカメラマン他2名で朝9時から午後7時過ぎまで長時間に亘って、写真撮影に携わり大変な作業をしていただいた。

展示については業者のクラヤを中心に撮影と同時進行し、招待作品は第二展示室に特別展示となった。加えて震災復興応援メッセージは学生を中心として約270点余の作品を部員の働きによって同時展示となった。

努力を重ねて創作された会員作品は、第一展示室に配置され、バランスよく展示することが出来た。コロナ禍の記念展としては盛会に開催出来たと思っております。

最後に、歴史と伝統を築いた先師の熱意とご努力に思いを馳せ、まさに60回という節目を新たな第一歩として踏み出すための機会としたいものです。部員のご活躍に感謝しております。

文化活動の力

副理事長・広報部 部長
北畠龍門



新型コロナウイルスはまだまだ沈静化の様相を呈しない。本連盟の事業もこの影響から2年間にわたり大幅な縮小を余儀なくされている。

さて、平成23年の3月11日は東北太平洋沿岸地域の震度7の大地震、この時直接被害に遭遇した岩手・青森の書道連盟が被害の状況は胸に秘め韓国との50周年記念大会に参加してくださった。その時の感動を忘れることができない。佐川会長・長沼理事長は「文化活動は人間の力や希望への大きな力となる」と日頃から提唱されている。

今回の60周年の記念行事も新型コロナウイルスの影響により2年間の事業縮小が有ったとはいえ、内容的には一層の充実感を多くの会員が得た。記念展覧会の会場全体が濃厚な雰囲気を感じた。また筆供養の参加児童も年々増加している。これらこそが文化活動の力の様相であり、会員一人ひとりの連盟に対する取り組みから生まれたものであると確信する。

書の醍醐味

総務部 部長
三浦湯舟



書は感覚の芸術です。書の奥に潜んでいるものを鑑賞者それぞれの感じ方で、楽しんでもらえたり、幸せな気分を味わってもらったりする事が出来ます。書を通して、書き手と鑑賞者との間に幾通りもの心の交流があると思うと書とは、実に良きもの、素晴らしいものだと思ふのです。こんな事を考えながら書道連盟の仕事をさせていた

ながら喜びを感じております。今年度も総務を仰せ付けられましたので、このコロナ禍の中で出来る事を工夫しながら筆供養、書初め展等活動してまいりたいと存じますので、今後とも宜しくお願い致します。

この度の秋田県書道連盟60周年記念の行事に於いて筆供養に加えて式典、祝賀会を無事終えることが出来ました事、会員の皆様に御礼申し上げます。

展覧会部の活動

展覧会部 副部長
道川屋 悟



令和3年度は先づ、7月の秋田県書道連盟創立60周年記念展が、部員と会員の皆様のご協力により無事に終えることができました。感謝申し上げます。

次に令和4年1月の新春書初め大会展覧会と同時開催の新春小品書展、そして3月の秀作美術展が続きます。どうぞご協力をお願い申し上げます。

展覧会部の活動について

展覧会部 副部長
藤原 瑛翠



今年度から展覧会部副部長を仰せつかりました藤原瑛翠です。経験豊かな藤原豊道部長、道川屋副部長のもとで、書道連盟展、書初め展と同時開催の小品書展、秀作美術展を頼もしい部員の方たちや会員の皆様のご協力を得て今後も活動、開催していきますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

- 部長 三浦 湯舟
副部長 齊藤 玲子・山谷 喜元
部員 前田 祥穂・竹村 和佳・碩 伸子
伊藤 京子 大黒 禾苑・麻木 照子
- 活性化委員
委員長 保坂 潤子
幹事長 大山 木蘭・工藤 歩美
委員 横山 由希 小坂 白悠・松橋 聖泉
佐藤紀公子・長沢 薫

- 部長 藤原 豊道
副部長 道川屋 悟・藤原 瑛翠
部員 伊藤 連紅・大山 木蘭・角田 萩瑠
鎌田 紅葉・小坂 白悠・小松 露秋
富樫 春郷・藤本 佳幸・保坂 省峰
松橋 聖泉・山口美代子・伊藤 雅人
石井 竹華 伊藤 恵雪・齊藤 孝快
野々部祥園

つつがなく

広報部 副部長
東海林 汎山



此の度も広報部副部長をおおせつかり身を引き締めしております。

内藤前理事長時代から長沼現理事長と、少し長い期間お仕事をさせて頂いて来ました。自分にも前期同様、名目だけの「副」ですが、今期も経験豊かな北畠部長(二度目のお仕え?)の下で指示を仰ぎながら、そして新しい発想と行動力のある長沢副部長の手助けをし、県書道連盟のため役目を貫きたいと思っております。

活動が伝わる紙面を

広報部 副部長
長 沢 薫



今年度は、今年2回の会報に加え、創立60周年記念展図録作成が主な活動となります。

連盟の活動等がある際は、パシャパシャと写真を撮らせて頂くことが多々あるかと思えます。その際はベストスマイルでどうか協力の程、宜しくお願いいたします。

オフラインのオンライン

研修部 部長
竹村 天祐



コロナ禍での研修のあり方の一案として、揮毫動画を作成しました。

秋田県書道連盟のホームページにアクセスして、「各部」↓「研修部」↓「研修動画」とクリックしてください。ここでパスワードを求められますので「renmei」と入力してください。長沼理事長による篆書の書き方の基本用筆から、石鼓文、泰山刻石、大孟鼎の臨書を視聴することが出来ます。

最近よく使われているオンラインミーティングですが、誰でも簡単に利用できそうですがなかなかハードルも高いようです。「へばなんとす?」ということ、動画の配信を考えました。ご覧になってご意見をお聞かせください。

部長 竹村 天祐
副部長 富樫弥恵子
部員 千田 寿山・阿部 公美・大山 美泉

雑感

広告部 部長
上野 泰夫



引き続き広告部長を仰せつかりました上野泰夫です。先ず以て、書初め席書大会と小品書展

の広告掲載にあたり、協賛・協力をいただいております広告主の皆様へ御礼を申し上げます。書初めが37社、小品書展は22社追加して61社、合計98社、85万8千円の収入となりました。

ところで、講演回数が一千回を超えましたが、稀に講演後、主催者のやゝ辛口の感想にあいびつくりすることがあります。普通は「さすがアウンサー、笑いの連続でした。正しい言葉使いや手紙の書き方、放送のウラオモテ、ビジネスマナーのことなど色々勉強になることばかり、有難うございました」とお世辞?を言うのが礼儀ではないかと。私が主催者だったらほめて言いますが...

余談ですが、今年の県展「写真部門」で夫婦揃って入選しまして、多くの皆さんから電話やメールを頂き、嬉しいやら照れ臭いやら複雑な気持ちでした。

コロナ禍、何かと厳しいものがありますが、広告主のご理解のもと広告どりに務めてまいります。皆様よろしくお願ひ致します。

ご挨拶

IT部 部長
相原 蕙花



今期もIT部は前期同様、ホームページの管理運営のため、各部との連携を図り次の基本方針を基に進めて参ります。

基本方針

■書道文化の振興と向上、会員相互の親睦

■情報を早く正しく分かりやすく

■著作権・肖像権・個人情報・表現などの配慮

会員の皆様からご意見ご要望等ございましたら、お気軽にお知らせ下さい。今後ともご支援ご協力よろしくお願ひいたします。

ホームページアドレス

<http://www2.tbb.t-com.ne.jp/aki-shodorenmei/>

部員 佐藤 綾子・佐藤 洲華

部長 北畠 龍門
副部長 東海林汎山・長沢 薫
部員 荒川 深井・春祥・佐藤 整
千田 寿山・栗森 吟雪・加藤 華翠

筆供養神事 ～使い終えた愛用の筆に感謝して～

7月10日（土）、午前11時から日吉八幡神社にて開催されました。

2001年に連盟が建立した筆塚に、玉串を捧げた後、筆を納めました。文房四宝の一つ、筆に感謝し、書の上達を願うことを目的に毎年行っております。

令和3年度筆供養参加者児童名 令和3年7月10日（土）			
小坂白悠先生 (白悠書院)	1.さとうほの	保育園	年長
	2.小玉 淑乃	川尻小	2年
	3.佐藤 彩良	秋大付属小	3年
	4.鎌田ひまり	川尻小	5年
	5.田中 俐壮	川尻小	5年
	6.高橋 優斗	川尻小	5年
	7.鎌田 夏帆	外旭川中	3年
竹村和佳先生	8.小松 綺寧	弘戸小	4年
	9.小松 大騎	男鹿市立南保育園	
前田祥穂先生	10.千葉 翠	大住小	3年
	11.千葉 昊	大住小	1年
	12.藤原 優凜	大住小	3年
	13.米屋 愛希	追分小	3年
石川恵泉先生	14.藤原 和喜	秋田幼稚園	年長
	15.鈴木 愛莉	広面小	5年
	16.鈴木 蓮絆	広面小	3年
	17.秋葉 瑛輔	広面小	3年
	18.村松 晃成	下北手小	3年
	19.伊藤 亜珠	広面小	4年
	20.佐良士 愛子	明德小	6年
筆供養玉串奉奠児童名			
高橋 優斗	川尻小	5年	教室～白悠書院
小松 綺寧	弘戸小	4年	教室～竹村先生



筆に感謝して



参加したこどもたち

参加しての感想

● 7月10日、日吉八幡神社で筆供養にさんかしてきました。当日、女子の代表として玉ぐしをやることになりました。さんちようしたけど、やったことがあったから上手くできました。初めて参加したので、良いけいけんになりました。（弘戸小学校四年 小松 綺寧ちゃん 竹村和佳さんお教室）

● ぼくは筆供養に参加して玉串奉奠の代表になりました。筆に「ありがとう」という気持ちと、「みんなで習字が上手になりますように」という気持ちで、しっかりとできました。これからも筆などの道具を大切に使用して、習字の練習をがんばりたいです。（川尻小学校五年 高橋優斗くん 小坂白悠さんお教室）

● 筆塚の中は深いのか、よく見えなかった。納めた筆も見なかったな。熊野筆をもらえて嬉しかったよ。あまりよく解らなかつたけれど、来年も参加したいな。（石川恵泉さんお教室の児童生徒さん）

● 今年は筆塚建立から20年の節目の年でもあります。役目を果たしてくれた筆の供養とともに、他界された各先生方への感謝の意も込めて参加させていただきました。（後藤武之さん）

秋田県書道連盟創立60周年記念展 特集

6～11頁

「筆塚」の後方の別個の小型石に刻されている文字



筆塚後方にある石碑

秋田県書道連盟建之
平成十三年十一月
長沼雅彦 謹書

●この年の会長

佐藤暢男さん（秋田魁新報社社長）

●筆塚建立地（ひえはちまんじんじや）

秋田市八橋 日吉八幡神社

●この筆塚建立の際の宮司齊藤至郎さんの思い出

筆に関係する古来からの神社は「菅原神社」である。菅原道真を祀っている。菅原道真は漢文学にすぐれて和歌も得意であり書道・習字の神様としてあがめられていた。

毛筆のために提供してくれた動物達の供養・役目を終えた筆に感謝するための供養等々が考えられ、現在も続いている。

そこで、齊藤至郎宮司と長沼雅彦理事が県内でも有名な八橋菅原神社に詣で筆塚の建立の意義を確認することからすべてが始まったのだという。使用されている石は「男鹿石」で、設計者・中田潤治氏にお力添えもいただき、場所は日吉八幡神社のご協力を仰ぎその境内に完成をみた。（北畠龍門）

秋田県書道連盟 創立60周年記念展

—台湾・青森県・岩手県 代表作品招待—

令和3年7月10日(土)～12日(月)、アトリオン2階美術展示ホールにて開催されました。

開幕式

10日(土) 午後1時から展覽
会場にて華やかに行われました。

次 第

開会

挨拶

秋田県書道連盟 会長

佐川博之

台北駐日経済文化代表処 秘書

陳珈儀

秋田県書道連盟 理事長

長沼雅彦

テープカット

秋田県書道連盟 会長

佐川博之

台北駐日経済文化代表処 秘書

陳珈儀

秋田県中華総会 会長

又井公久

秋田県書道連盟 理事長

長沼雅彦

閉会



長沼理事長あいさつ



陳珈儀さんあいさつ



佐川会長あいさつ



いよいよテープカット



この日に向けて、5月30日(日)イヤタカにて正副部長会議が行われました。



左から2番目から順に、秋田県中華総会会長 又井公久さん、台北駐日経済文化代表処 秘書 陳珈儀さん、佐川会長、長沼理事長



活性化委員は保坂委員長を中心にテープカットのお手伝いの為、スタンバイ。総務副部長山谷さんの司会で始まります。

記念展

中華民国書学会から20点、青森県書道振興会議から10点、岩手書道協会から11点、秋田県書道連盟から140点、合わせて181点の作品が展示されました。

「創立60周年記念秋田県書道連盟作品集」について、秋田魁新報社より撮影の為、カメラマン2名のご協力をいただいております。発行までもうしばらくお待ち下さい。



入口写真



楽しくご歓談



中華民国書学会からの作品



左から4番目 三浦総務部長



多様な作品の数々



ベストショットを狙っている深井



打合せをしている左から深井・北畠・佐藤整の広報部



和やかな雰囲気の出展部

ご来場の方からの感想

- 蓮の花の印がとて印象に残っている。
- 他県の作品も見られて勉強になった。
- バライティーに富んだ作品が並んでいる。
- 台湾の方々の作品は、軸装もカラフルで、華やかな印象。
- 本格的な作品を見ることができてよかった。
- 読めない作品ばかりだったが、芸術性の高さに圧倒された。

那 墨痕あざやか 波

あなたの筆勢を伝える筆。
「書」の心をうつす墨、紙。

那波紙店

〒010-0921
秋田市大町四丁目3-35
☎ 018-823-4311(代)

総合書道用品販売

- ◎ 展覧会・企画・展示
- ◎ 〈表具〉〈額装〉〈軸装〉
- ◎ 各種展覧会搬入搬出承ります
- ◎ 文房四宝・低価格にて提供しております

株式会社 クラヤ

〒010-0952 秋田市山王新町4-5
TEL 018-863-6001 FAX 018-863-6004
ホームページアドレス <http://www1.ocn.ne.jp/~kuraya>
メールアドレス kuraya@seagreen.ocn.ne.jp

震災復興応援メッセージコーナー

東日本大震災以降、秋田での国民文化祭（第29回国民文化祭・あきた2014）が平成26年に開催されました。時間の経過とともに風化しがちな被災地への思いを、書のもつメッセージ性を生かし、復興応援したいという趣旨ではじめました。以降、書道連盟展では毎年通常展に加えて継続してきました。

今年度は高校生からも作品を募集しました。会員から17点、高校生から262点、計279点が展示されました。

●震災から10年、今もなおその影響が続いています。私たちに出来ることは少ないのですが、今回の作品展を通して被災された皆様に私たちの思いが届いたなら幸いです。そして、あの日の教訓を風化させることなく次の世代へと引き継いでいきたいと思えます。（御所野学院高校3年書道部部长 池田琉菜さん）

●大曲高校で芸術科書道を選択している1年生68名と、書道部22名が出品しました。唐の四大家の臨書を終え、その雰囲気を活かした倣書作品を制作しました。ご笑覧ください。（大曲高校 指導者竹村天祐さん）

●復興に向かい、一步一步歩まれている被災地の皆様に、私たちは勇気をいただいております。「いつまでも応援しているという想いを表現したい」と、生徒たちは心を込めて筆を運びました。（聖霊女子短期大学付属高等学校 指導者 佐藤綾子さん）

●秋田西高校からは6人の生徒が出品しました。「心を込めて丁寧に書く」という目標で色紙に書道経験のある人ない人、それぞれが真摯に作品と向き合いました。

しかし、作品展示の当日目を疑う光景が広がりました。作品を貼って

いると「雄勝硯」と書いた半紙の作品がこれでもかこれでもかと言わんばかりに次々に貼られて行くではありませんか。なんと壁一面が「雄勝硯」一色で埋めつくされました。

「ああ！こういう表し方もあったのか！」と思いきらされました。秋田商業高校の生徒の作品でした。

遠く離れた場所から「硯」の産地を応援する。書に携わっている方々からはの発想だと脱帽した瞬間でした。（秋田西高校 指導者 成田昌雲さん）

●雄勝硯。壊滅的な被害から、現在は若い世代が伝統と継承しようとして奮闘している姿を、本県の高校生が知ることは大切だと思います。授業の一環で取り組み、149名出品しました。（秋田商業高校 指導者 長沢薫さん）



会員の皆様からの作品



高校生からの作品



数々の作品に心打たれる北畠部長



7月10日(土)午後6時から、秋田ホテル12階スカイバンケット「JULIAN」で行われました。

次 第

◆開会

◆挨拶

◆祝辞

◆記念品贈呈

◆乾杯

◆スピーチ

◆お開き

◆閉会

秋田県書道連盟 会長 佐川 博之

台北駐日経済文化代表処 秘書 陳 珈儀
中華書学会 会長 張 炳煌
(代読) 秋田県書道連盟 理事長 長沼雅彦

秋田県書道連盟 副理事長 藤原 豊道

秋田県中華総会 会長 又井 公久

秋田県書道連盟 副理事長 北畠 龍門

秋田県書道連盟創立60周年記念祝賀会 名簿

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 加賀屋 綾乃 | 加賀屋 真琴 | 大山 美秋 | 上野 泰秋 | 植田 清寛 | 阿部 清楓 | 北畠 龍門 | 藤原 豊道 | 長沼 雅彦 | 佐川 博之 | 齋藤 至郎 | 黄 敏 | 高橋 聡美 | 佐藤 嘉繁 | 又井 公久 | 陳 珈儀 |
| 佐藤 聖賢 | 佐藤 穎希 | 横山 喜元 | 山田 喜庵 | 山浦 舟幸 | 三浦 健幸 | 保原 瑛子 | 藤井 春祥 | 成田 昌雲 | 長沢 弥惠 | 富田 山子 | 千田 玄山 | 竹内 汎山 | 東海 晃子 | 佐藤 敬子 | 齊藤 玲子 |
| 小松 清快 | 黒木 天峯 | 工藤 歩美 | 木本 信子 | 鎌田 江葉 | 角田 萩瑛 | 角田 聖賢 | 角田 聖賢 | 角田 聖賢 | 角田 聖賢 | 角田 聖賢 | 角田 聖賢 | 角田 聖賢 | 角田 聖賢 | 角田 聖賢 | 角田 聖賢 |



受付、素敵な笑顔でお出迎えをする千田寿山さんと角田萩瑛さん



祝賀会中も、会計など打合せに余念のない齊藤玲子さんと山谷喜元さん



あいさつ回りをする北畠副理事長



記念品の贈呈で更に親交が深まりました



無事に終り笑顔の三浦総務部長と大山美泉さん



盛り上がっています！右は小松清峯さん



藤原副理事長の乾杯に応える長沼理事長と面々

これまでの主な展覧会 (連盟会員)

▼会員の受賞者作品
写真は、秋田魁新報社提供

第63回 秋田県美術展覧会(県展)

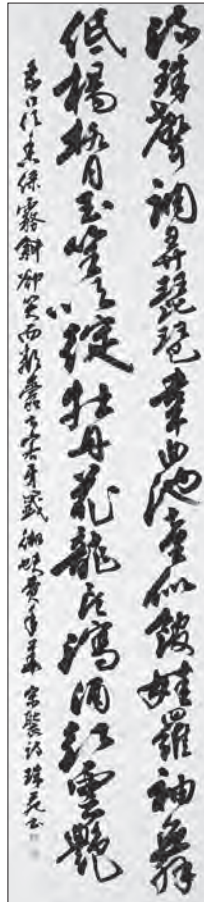
6月25日(金)～30日(水) アトリオン

昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止したため、2年ぶりの開催となりました。

◆特賞 (秋田県議会議長賞)

〔都城雑詠〕

佐藤 珠 苑 (北秋田市)



まさかの三段跳び

佐藤 珠 苑

走の日々。加藤華翠先生の御指導

のもと、何とか書き上げた作品で

した。審査の先生の評にはその全

てが詰まっており、感慨もひとし

おです。心揺さぶられる線・空間

の美しさ。納得のいく表現目指

し、真に跳べたと言えるようコツ

コツと邁進あるのみです。



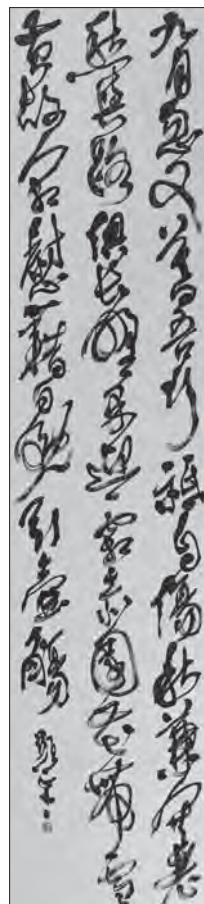
入賞が精一杯の
技量、加えて初挑
戦の三行形式に、

書き込むほどイメージを掴めず迷

◆奨励賞

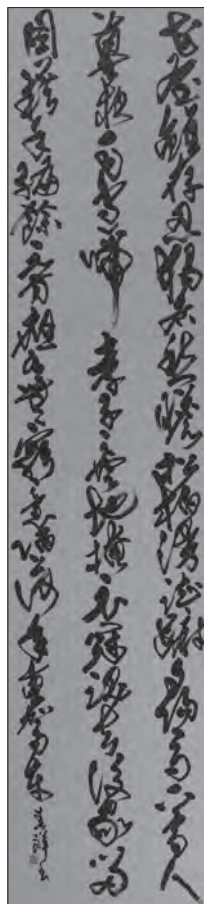
〔王禱詩〕

山口 顕 正 (仙北市)



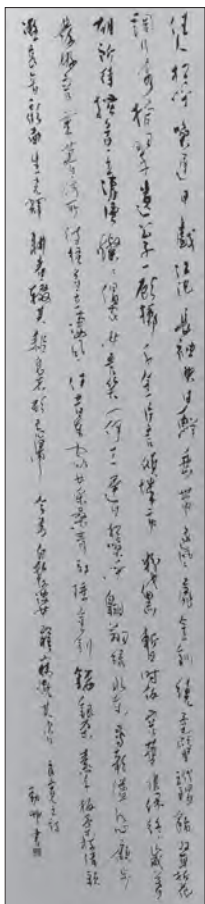
〔高青邱詩〕

深 井 春 祥 (潟上市)



〔良寛の詩〕

伊 藤 頸 草 (由利本荘市)



第37回 読売書法展

「本格の輝き」

東北展は10月27日(水)～31日(日)
山形美術館・山形県芸文美術館

読売新聞社賞

根 北楸(秋田市) かな部門

秀逸

一ノ関清山(秋田市) 漢字部門

深井 春祥(潟上市) 漢字部門

佐藤 珠苑(北秋田市) 漢字部門

佐々木汪心(秋田市) 調和体部門

奥山 朱鳳(大仙市) 調和体部門

会友(無鑑査)

長沢 薫(秋田市) 漢字部門

松塚 汪泉(秋田市) 漢字部門

佐藤 颯(潟上市) 漢字部門

入選

佐々木嶂芳(秋田市) 漢字部門

古田 柯香(秋田市) 漢字部門

眞田 錦水(横手市) 漢字部門

巽 紫龍(大館市) 漢字部門

浅野 玉韻(秋田市) かな部門

伊藤 京子(秋田市) かな部門



日本海中部地震

男鹿の津波も忘れない



男鹿水族館GAO近くにある「マリア像」

「復興へ、書の力・文化の力
・そして継続の力」

平成25年、秋田県が国民文化祭を迎える年本連盟の取り組みのプレとして小笠原会長・長沼理事長を中核に「震災の復興支援展覧会」が検討された。

震災で被災した人たちに対する想いを書の形で表現し届けることである。このことは文化に通じるものであるし、無限の力もあると信じられる理念からである。

当時の黒木天蕭総務部長、山谷嘉元副部長の微に入り細を穿つ推敲、そして三浦湯舟展覧会部長を中心に部員がその直接的作業に当たった。

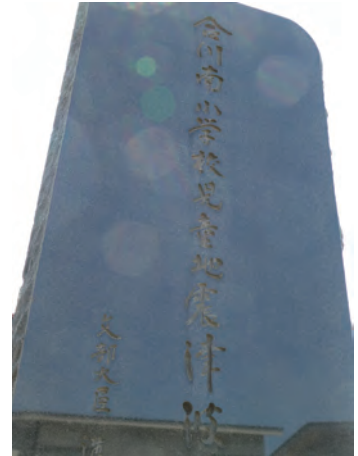
幅広い層から2729点もの作品が寄せられた。折しも秋田県を代表する竿灯祭りとなり県内はもちろんのこと県外や外国の方々も来場してくださり大盛会であった。

正に書の力であり、文化の力となったのである。

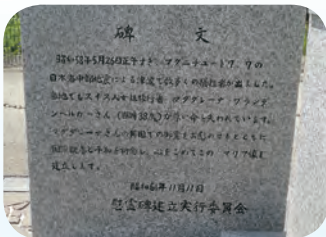
あの東日本大震災から10年を数える今年も継続して「復興支援展覧会」を道川屋悟展覧会副部長や部員の努力で開催を継続できた。ところで、県内でこうした想定外の突然の災害が過去にもある。それは昭和58年5月26日の日本海中部地震である。その被災した人にもこの想いを届けたい。
男鹿半島の加茂青砂海岸に遠足に来ていた合川南小学校の4年生5年生の13人である。津波で若い尊い命が失われた痛ましい被災であった。
そのとき近くにいた大人達が四艘の漁船を出し、おぼれている子供達を救おうと必死であり、婦人達はロープなどを出して助けよう



裏 (4年生8名、5年生5名)の氏名が書かれています。



旧男鹿市立加茂青砂小学校にある一碑「合川南小学校児童地震津波殉難の碑」表 縦3m×横1m



マリア像の碑文



遺族による慰霊碑

(北畠龍門)

栗森貢さん(男鹿市)より、写真の提供をいただきました。

と命がけであったという。しかし津波という自然の魔物にはその力は及ばなかった。この加茂青砂海岸に碑が建立されている。時の瀬戸山三男文部大臣の揮毫による「合川南小学校児童地震津波殉難之碑」である。碑の側には「13のみ霊よともにたわむれん光あふるる今日この浜辺に」とこ遺族一同の碑が添えられている。現在、合川南小学校は合川小学校に統合されている。「この碑は子供達の手によって清掃されています。」と合川小学校の武石祐子校長先生が仰っている言葉が耳にした時、私は胸がいっぱいになり言葉が出なくなってしまう。
また、戸賀湾でもスイスの女の方も津波で被災している。その慰霊碑がマリア像である。このように被災した方々に書を通して想いを届けることも「復興支援」の大切な一面であると思う。
本連盟の「復興支援展覧会」は伝統として大きな意義がある。今後とも会員一人ひとりの書の力、文化の力を継続して行きたいものである。

会員募集

日頃から本会の運営につきましては、格別のご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

本会は、より多くの書道を愛好する皆様に活躍と研修の場、作品発表の場、会員相互の情報交換の場などとしていただくため活動しております。

会員は随時募集しておりますので、事務局までお問い合わせ下さい。ホームページもごらん下さい。

事務局 秋田市泉菅野一丁目18-1 三浦 湯舟
ホームページ

<http://www2.tbb.t-com.ne.jp/aki-shodorenmei/>

編集後記

会報をお読みいただきありがとうございます。今年度の最大イベントは何といっても六十周年記念展。代々バトンを繋いだ軌跡を感じました。書写に励んでいる可愛い子どもたちの手に、書道のバトンを渡し、明るい未来を育てて行きたいと思う日々です。

末尾になりましたが、ご協力いただきました皆様には心より感謝申し上げます。(広報部員一同)

今後開催予定の主な展覧会

- 第34回 清芽会書展併催教育部作品展
令和3年10月1日(金)～4日(月) 由利本荘市「カダーレ」
 - 第39回 秋田墨滴窓友会書道展
令和3年11月5日(金)～7日(日) 大仙市「はなび・アム」
 - 第20回 日本書学研究会 秋田一先会かな書展
令和3年11月27日(土)～29日(月) アトリオン 第1展示室
 - 第44回 瀾の会書展
令和4年1月21日(金)～23日(日) アトリオン 第2展示室
 - 第9回 書遊会展
令和4年3月11日(金)～14日(月) 五城目町「五城館」
 - 第29回 瀾の会小品展
令和4年4月8日(金)～10日(日) アトリオン 3F展示室A/B
- 総務部・IT部に届いている展覧会を掲載しております。
ご了承ください。

一般書道 総合誌
教育書道



68年の歴史をもつ秋田県随一の月刊書道誌
書写指導に好評を得ております。

書友社

〒010-0954 秋田市山王沼田町11-11
TEL 862-3484 FAX 862-3485

美術表装一式

掛軸、和額、屏風、襖

中山表具店

〒011-0917 秋田市飯島道東二丁目4番10号
TEL 018 (846) 8496

情報社会に育つ



本社工場 / 〒010-0921 秋田市大町一丁目6番6号

TEL 018 (823) 5551 (代)
FAX 018 (823) 5553

URL : <http://www.akita21.com/tsukada/>
E-mail : tsukabi@cna.ne.jp

筆、墨、硯、紙から額縁まで全品3～4割引き
貸額、軸装、古軸仕立て直し承ります

書道用品専門店

東方交易 秋田店

午前10時～午後5時

〒010-0001 秋田市中通1-2-3
リバーサイド秋田ビル5F 502号
TEL / FAX.018 (837) 2220

特設コーナー他お買い得商品が満載 ネットショッピング

東方交易

検索

楽天・Yahoo・amazon
はがき、電話、FAXでもどうぞ